

キャラクターシート

三ヶ田明継(みがたあけつぐ)
～物語の”鍵”を開きし者～

勝利条件

メインミッション : 犯人を見つける

サブミッション : 三ヶ田家の使命を果たす



基本情報

公開情報

- ・ 死去した三ヶ田参元郎の子。3兄弟の次男。
- ・ 8年前に禁忌を犯し、父「三ヶ田参元郎」から勘当されている。

秘匿情報(情報の開示は慎重に)

- ・ あなたは紛れもなく潔白です。



あなたの人生

～三ヶ田家の使命を背負って～

あなたは三ヶ田家の次男として生まれます。

幼き頃から、父「三ヶ田参元郎」より三ヶ田家の使命を守り通すようにと、
口酸っぱく言い聞かせてられました。その三ヶ田家の使命とは、

「地下に封印された秘密を守り通すこと」

三ヶ田家は古くより秘密を隠し通す守護者のような役割を担っており、誰にも真似できない強固な金庫と
強固な鍵を作り上げ、様々な秘密をその中に隠し、永遠に封印していたのです。

秘密の内容を聞くことは禁じられていましたが、秘密のレベルに応じて、鍵の強さも変える事になっていました。

鍵の種類は全部で3つ。”^{いちげんじょう}一元錠”、”^{にげんじょう}二元錠”、そして”^{さんげんじょう}三元錠”。

特に危険な秘密は、三元錠で封印することとなるのです。

あなたの人生 ～好奇心から～

父の跡を継ぐ意思を持った者は次男である、あなた1人だけでした。

長男「三ヶ田^{みがた きょうすけ}経輔」はミュージシャンになる為、単身家を出ていき、

三男「三ヶ田^{みがた きくま}菊真」は事故で寝たきりの状態となった為、回復するまで療養生活を強いられてしまいます。

残されたあなたは三ヶ田家の使命を背負う為に、決して努力を惜しみませんでした。

しかし8年前のある日、あろうことか地下の金庫の鍵を自己判断で作り上げてしまうのです。

勉強の為に鍵を複製したに過ぎず、金庫を開けるつもりもありませんでした。

しかし、ふとした好奇心で”二元・零零三”の金庫を開けてしまうのです。

金庫の中には、小さな日本人形が収納されており、「^{はかたくぎにんぎょうに}博多供儀人形式」という掛札が置いてありました。

あなたの記憶はそこまで。

なんと気が付けば、病院のベッドの上に^ふ臥していたのです。

あなたの人生 ～勘当と苦悩と新たな使命～

あなたは金庫の封印を解くという禁忌を犯したため、父から勘当されることとなります。
罪悪感に押し潰されたあなたは数年寝たきりとなり、ついに重い病氣^{わずら}を患ってしまいました。
若い内に余命1年と宣告され、絶望の淵に立たされるのです。

失意の最中、父「三ヶ田参元郎」の訃報^{ふほう}があなたの元に届きました。
空っぽの心を抱えたまま、あなたは懐かしき故郷である三ヶ田家へ舞い戻ります。

しかし、戻った故郷であなたは再び心に炎^{とも}を灯すことになるのです。
切っ掛けは、三ヶ田参元郎の部屋にあった置き手紙。

そこには、驚愕の内容が綴^{つづ}られているのです。

タイムライン

	18時	19時	20時	21時	22時	23時	0時
居場所	玄関	地下	和室	和室	和室	作業場	作業場
行 動	三ヶ田家に到着。 【使用人】が出迎えてくれた。 参元郎の部屋で手紙を発見。 「紫色の短刀」を入手。	呪物を破壊する為、「三元錠」が掛かる金庫の前へとやってきた。 錠前を外す事はできなかった。	「遺言状開封式」のメンバーを待っていた。 待っている最中、過去の事を思い出す。 結局誰も現れなかった。	1時間遅れて【弁護士】と【三男】が登場。 【弁護士】が開封式の中止を宣言した。 部屋に戻り、和室の壁金庫の鍵を入手。	壁金庫から「三元錠」の設計図を入手。 自室に戻る際、玄関から屋敷に戻る雪塗れの【弁護士】を発見。	“三元錠”の作成に取り掛かるが失敗。 人の気配を感じた。	地下から話し声が聞こえた為、奥へ向かうと【長男】の死体を発見。



時系列

～18時-①～

三ヶ田家に到着した。此処へ来るのは8年ぶり。父「三ヶ田参元郎」から勘当されて以来だ。
長い庭を通り、その先の玄関を開くと、【使用人／柊良太郎】が出迎えてくれた。
挨拶する元気も出ず、目も合わさずに自室へ直行した。

8年ぶりに自宅の空気を吸い、努力を重ねていた当時を思い出す。
ふと父が恋しくなり、^{おもむ}気の赴くままに三ヶ田参元郎の部屋に向かった。

8年前と何一つ変わっていない父の部屋だが、机の棚から封筒がはみ出している事に気が付いた。
封筒には手紙と鍵が同封されている。あなたは手紙に恐る恐る目を通し、そして驚愕した。

なんと手紙は「三ヶ田3兄弟宛て」だったのである。

時系列

～18時-②～

「もう全てが手遅れだった。私の精神は後数分で事切れるだろう。だから意識がある内にこの手紙と鍵を託す。
託す相手などいる訳が無いのに愚かな話だが、使命は果たさねばならない、必ず。
同封の鍵は私の部屋の隠し金庫のものだ。そこにある短刀は私が託すことのできる全てだ。
何も出来ぬままあの世へ逝く父を許してくれ。三ヶ田参元郎より」

あなたは手紙と一緒に入っていた鍵で、三ヶ田参元郎の部屋にあった壁金庫を開く。
そこには腐りきった死骸が入っていた。死骸の胸には「**紫色の短刀**」が突き刺さっている。
手紙に記載があった短刀はこれか。不思議で禍々しい短刀だ。一体何が起こったというのだろう。
様々な憶測と疑問が頭の中で交錯^{こうさく}する中、心に小さな火が灯る。
自分の犯した禁忌が三ヶ田家の終焉を導いたのだとしたら、この大仕事は自身がやり遂げねば。
愛する父の未練を晴らす為、必ず三ヶ田家の使命を果たす！

時系列

～19時～

自分にできることはたった二つだ。1つ目は、この命が尽きるまで地下の金庫を守り通す事。

当然秘密を暴こうとする者がいれば容赦はしない。しかしこの案には問題があった。

それは自分の命がもう長くないという事だ。いずれ自分は死に、三ヶ田家を守る者もいなくなる。

ならば選択肢はただ一つ。「**守るべき秘密を全て破壊する**」事だ。

破壊してしまえば全ては闇の中に葬られる。決意を胸に秘め、地下へ降りた。

そして^{おびただ}夥しい量の金庫をかき分け最深部へ進むと、そこに禍々しい金庫が姿を現したのである。

錠前には「**三元・零零一**」と書かれていた。まさしく”**三元錠**”だ。

三ヶ田家に存在する最初で最後の”三元錠”。

恐らくこの中に、身の毛もよだつ秘密が封印されているに違いない。

自分が8年前に開けた”二元錠”ですら父は危険と言っていたから、その恐ろしさは容易に想像できた。

しかし、肝心の鍵が無い。試しに「紫色の短刀」で錠前を数回殴ってみたが、案の定びくともしなかった。

時系列

～20時～

和室に入り、座布団に腰を落ち着けた。

【弁護士／岐阜根賽雅】から今日の20時に、ここで遺言状の開封式を執り行うと聞いている。

しかし、いくら待っても他の兄弟と【弁護士／岐阜根賽雅】が現れることは無かった。

待ち時間の最中、昔この和室で父が言っていた事を思い出す。

「和室の掛け軸裏には、壁金庫がある。金庫の中には”三元錠”を作るための設計図を隠している。

いずれお前も学ぶことになるだろう。鍵は唯一の後継者であるお前の部屋の机に入れておいた。

時が来たら、その鍵を使いなさい。ただし、地下の”三元錠”の鍵は絶対に開けてはならない。

開ければ、お前の身に何が起こるか分からない」

和室の掛け軸は何故か外されていた。^{あら}露わとなった壁金庫がこちらを見つめている。

時系列

～21時～

引き続き、和室で待機していると【弁護士／岐阜根賽雅】が現れた。

それに続き、【三男／三ヶ田菊真】もやってくる。

【弁護士／岐阜根賽雅】はその場に頭を下げ、「遺言状の開封式は中止する」と宣言した。

理由は、持ってきた遺言状が消えていたとのことだった。

彼は明朝まで屋敷の中を探し回ると宣言、神妙な面持ち^{おもも}で和室を後にした。

【次男／三ヶ田菊真】に事故の怪我は完治したのか尋ねようとしたが、何も言わず早々に立ち去ってしまった。

久々に兄弟同士で雑談でもしたかったが、残念だ。

もう十年以上は話していない。血が繋がってるとはいえ、他人同然か。

自室に戻り、先程の記憶を頼りに机を漁った。

すると、和室の壁金庫の鍵を発見。これで”三元錠”の設計図が手に入る。

時系列

～22時～

和室に戻り、手に入れた鍵で壁金庫を開けた。

中には数枚の羊皮紙が収納されており、“三元錠”の設計に関する記述がびっしりと書かれていた。

軽く目を通したが、あまりに内容が複雑すぎて理解が追い付かなかった。

過去に作成した“一元錠”、“二元錠”の鍵とは明らかに格が違う。

当時この資料を見ていたとしても、理解できたかどうか。

しかし地下の“三元錠”を開くには、資料を基に鍵を作るしかない。

羊皮紙を自室に持ち帰って、今後の検討をすることにした。

部屋へ戻る際に、玄関から屋敷に入る【弁護士／岐阜根賽雅】を目撃。雪に塗^{まみ}れていた。

時系列

～23時～

“三元錠”の設計書を手に、作業場へ向かった。

しばらく鍵の制作から離れていた身。

”三元錠”を作り上げるなど夢のまた夢ではあるが、試してみなければ分からない。

8年ぶりに握る彫刻刀に指が震える。

設計書を元に制作に励むが、結局作りきることは出来なかった。

やはりもう自分には無理なのか。彫刻刀を静かに置き、項垂れた。
うなだ

せつな
その刹那、作業場で人の気配を感じた。

耳を澄ますが、物音はしない。

気のせいあるか、或いは……。

時系列

～0時～

作業場で項^{うなだ}垂れていると、地下から何者かの話し声が聞こえてきた。

こんな夜遅くに誰が？

疑問を抱えながら地下へ降り、恐る恐る奥へ進むと、足元に何かが当たった。

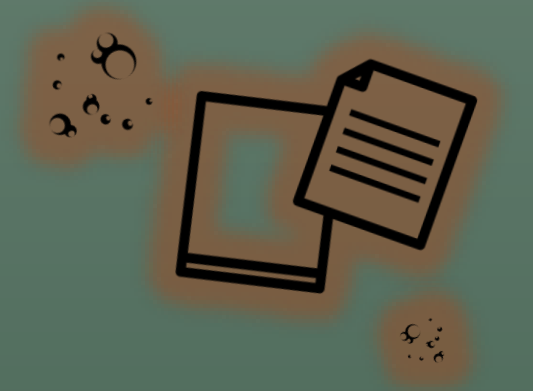
暗闇の中で目を凝らすと、なんとそこには、

頭^{えぐ}の抉れた【長男／三ヶ田経輔】の死体が横たわっていたのである。

驚きのあまり大きな悲鳴を上げ、その声に屋敷に居た全員が集まった。

最悪な1日が始まりを告げたのである。

所持アイテム



Lv. 1 大量の錠剤(持参品)(罹っている病の治療薬)

Lv. 2 鍵「二元・零零三」(持参品)(8年前自身で作って金庫を開けた鍵)

Lv. 3 紫色の短刀

Lv. 4 “三元錠”の設計図

特殊行動



特殊行動は、推理パートで1度だけ行えます

(使用する場合は特殊行動する事を、全体に伝え、行動名と行動内容を発言する)

【脅迫】

- ・ 秘匿されたアイテムを1つ強制的に公開させる。
- ※ 能力を使用する為には、武器や凶器が必要。
- ※ ただし特殊行動で武器が壊れることは無い。

最終行動



最終行動は、拘束フェイズ後に行えます

(自分が拘束されていない場合に行動可能)

- ・ プレイヤー1人のアイテムを破壊する(1つ限り)(自身の持つアイテムも選択可)
 - ※ プレイヤーのアイテムと、破壊する為に使用する武器をGMに提示すること。
 - ※ 破壊できるアイテムは、ココフォリアの画面上に存在する物に限る。
 - ※ ただし金庫や錠前を破壊し、中身を確認することは出来ない。
- ・ プレイヤー1人を襲う。
 - ※ 襲うプレイヤーをGMに提示すること。不必要と感じたら、実行しない選択も可。
 - ※ 三ヶ田家の秘密に触れようとする者に、遠慮はいらない。

被害者の状況



みがた きょうすけ
被害者：三ヶ田経輔

- ・ 地下の最深部で死亡している所を【次男／三ヶ田明継】が発見
 - ・ 後頭部が深く凹んでいる、それ以外に外傷はない
-
- 被害者の詳しい情報
 - ・ 身長：180cm以上(詳しくは不明)
 - ・ 体重：不明
 - ・ 黒いレザージャケットを羽織り、青色のダメージジーンズを履いている(派手な若者の服装)
 - ・ 髪は茶髪で背も体格も比較的大きい為、迫力がある

あなたが持つ情報



- 三ヶ田家の地下の金庫には必ず”^{いちげんじょう}一元錠”、”^{にげんじょう}二元錠”、”^{さんげんじょう}三元錠”と呼ばれる錠前が掛けられている。
→ 数字の値が大きい程、複雑な錠前。
- 三ヶ田家の3兄弟は以下の通り。
→ 長男「^{みがた きょうすけ}三ヶ田経輔」、次男「^{みがた あけつぐ}三ヶ田明継」、三男「^{みがた きくま}三ヶ田菊真」
- 兄弟達は皆、若くして三ヶ田家から離れている。

あなたの特徴



● 基本情報

- ・「身長：176cm」、「体重：54kg」、「年齢：24才」

● 見た目

- ・ 使い古してボロボロの紺色のカーディガンを着ている、身体がかなり細い為、服はぶかぶか
- ・ 顔はやつれて生気が無い、目の下にクマ、髪は手入れされておらずボサボサ、身体に怪我などは無い

● 周りから見たあなた

- ・ 終始具合が悪そう、表情が少ないので不気味
- ・ 雰囲気はまさに死人、楽しい会話はとてもできそうにない

三ヶ田菊真の特徴



● 基本情報

- ・「身長：165cm程度(詳しくは不明)」、「体重：不明」、「年齢：20歳」

● 見た目

- ・ 黒いラフなパーカーを着ている、決して目立つ格好ではなく全体的に地味目
- ・ 体格は比較的細身

柊良太郎の特徴



- 基本情報

- ・「身長：160cm程度(詳しくは不明)」、「体重：不明」、「年齢：不明」

- 見た目

- ・ 灰色のセーターを着ている、完全にラフな部屋着
- ・ 4人の中で一番身長は低いが体格は並

岐阜根賽雅の特徴



- 基本情報

- ・「身長：170cm程度(詳しくは不明)」、「体重：不明」、「年齢：不明」

- 見た目

- ・ 高そうなスーツを着ている
- ・ 身長は高く、体格も比較的大きい

登場人物一覧



- 【長男】： みがた きょうすけ 三ヶ田経輔
- 【次男】： みがた あけつぐ 三ヶ田明継
- 【三男】： みがた きくま 三ヶ田菊真
- 【使用人】： ひいらぎ りょうたろう 柊良太郎
- 【弁護士】： ぎふね さいが 岐阜根賽雅
- みがた さんげんろう 三ヶ田参元郎